各施設長 様

保育部会総務委員会(主任研修)報告書

<table>
<tr><td colspan="3">浜田市保育連盟会長
山　﨑　央　輝</td><td colspan="3">保育部会長
宮本　ゆかり</td></tr>
<tr><td rowspan="2">開催
日時</td><td>令和５年６月２３日</td><td rowspan="2">開催場所</td><td rowspan="2">浜田市総合福祉
センター大会議室</td><td rowspan="2">記
録
者</td><td rowspan="2">れんげ保育園
宮本 ゆかり</td></tr>
<tr><td>１０：００～１５：００</td></tr>
<tr><td>出
席
者</td><td colspan="3">加盟園１７園（２５名）</td><td>欠
席
者</td><td>今福保育園
バルナバ保育園</td></tr>
</table>

令和５年度の主任研修は、対象を主任保育士・副主任保育士・専門リーダー保育士と幅を広げて行いました。

● 講　師：合同会社子どもベース
　　佐伯 絵美先生

● 内　容：「子どもの主体性を尊重する保育」とそれを支えるマネジメントについて
　　講義とワークを通じて学んだ。

○ 保育現場で重要視される『子どもまんなか』

○「保育の質の向上」の３つのカギ
　・子どもにとって魅力的　・保育者にとって魅力的　・保護者にとって魅力的

○ 保育の質を高めるサイクル
　・職員一人ひとりの日常的な振り返りや対話のサイクル
　・職員全体での主体的で継続的な対話的な取り組み
　・「子どもの姿」ベースのサイクル（Plan からでなく）
　　子どもの姿　→　振り返り　→　改善　→　計画

○ 取り組みを進めていく際のポイント…明日の保育に向けた評価、日常的な記録
　　評価→　記録→　対話→　子どもの姿をベースに明日の計画をデザイン
　　→　語り合う職場の風土が育つ。

○ 子どもの声を聴くことの重要性…サークルタイム
　・子ども達と園生活を共に作っていく。

○ サークルタイム
　・個人との対話で声を聴く
　・遊びに参加しながら声を聴く
　・表情・しぐさ・行動から聴く
　　} 内なる声に耳を傾けることが重要

○ 『主体的』とは、「私が私であること」ありのままの自分でいられる
　　受け入れてもらえる

○ 子どもの遊びから、子どもの興味・関心に基づいた環境構成

○ 子ども次第で遊びは変わる。もう一度、子どもの今の姿を見直す。

○ 子どもが見ている世界を共に見ようとすると、子どもへの理解が深まる

○ 子どもの声に応えながら日々保育していくと、子どもからどんどん意見が出てくる

○ 「子どもの姿」をとらえる記録

・子どもの理解を深めるツール

・保育間の対話の媒体として

・子どもの姿、保育士自身の関わりを振り返るツールとして

・子どもの姿に基づいて、明日以降の保育として

○ 『保育ウエブ』…子どもの姿を基に保育を考え続ける

○ 同僚性・対話

・子どものことを語り合える

・他者とは異なる自分の意見が言える

・それぞれの意見をテーブルに出し合いながら、本質をみんなで考えられる

・互いの違いを認め合い、良さを生かし合える

・お互いをリスペクトし合える関係性

○これからの保育計画の考え方

・子どもの姿→　記録→　対話→　保育計画→　保育実践

※ 演習…「保育ウエブ」

・各園から持ち寄った写真を見ながら「子どもの姿」を話す。

・１つの遊びをテーマに、どんな遊びへ広がっていくかを書き出していく。

● **参加者の感想より/受講して感じたこと**

・子どもの声をしっかり聴くことの大切さ
（子どもの目線で/子どもの興味関心を知る）

・保育士が楽しめること、わくわくすることが大切

・職員同士の共通理解の大切さ

・職員同士の語らいの場作りの大切さ

・「子どもにとって」「子どもまんなか社会」という言葉を大切に受け止めていきたい

・Plan からでなく「子どもの姿」から取り組んでいく

・改善点…子どもたちに結果を求めたり、自分の思いに引っ張ってしまっていること

・課題…「保育ウエブ」を指導計画に取り入れるには、どのように変えていけばよいか

研修で学んだことを各園、園に持ち帰り、実践できることから取り組み、また職員と語り合いを深めていくことで、「子どもまんなか」「子どものために」を意識した保育に変っていけるのでは…とわくわくしています。

活動紹介用

◆ 主任研修として、主任保育士・副主任保育士・専門リーダーを対象に、
「子どもの主体性を尊重する保育とそれを支えるマネジメントについて」講義とワークを通して学びました。